

作成日2010年12月31日
改訂日

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

製品名	DPA-Na(ダラポン)
会社名	保土谷UPL株式会社
住所	〒103-0027 東京都中央区日本橋三丁目14番5号
担当部門	営業部
電話番号	03-6225-3194
緊急連絡電話番号	03-6225-3194
FAX番号	03-6225-3197
メールアドレス	hodogayaupl@hodogaya-upl.com

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	分類基準に該当しない	
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	区分外
	急性毒性(吸入:ミスト)	区分4
	皮膚腐食性/刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2B
	皮膚感作性	区分外
	特定標的臓器毒性(単回暴露)	区分外
	特定標的臓器毒性(反復暴露)	区分外
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	区分外
	水生環境慢性有害性	区分外

GHSラベル要素 シンボル



注意喚起語	警告
危険有害性情報	H332 吸入すると有害 H320 眼刺激

注意書き 安全対策

ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。(P261)
取扱い後はよく眼を洗うこと。(P264)
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。(P271)

救急措置

吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
吸入した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。(P304+P312)
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)

目の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。(P337+P313)

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別
一般名

単一製品
2,2-ジクロロプロピオン酸塩

成分	濃度又は濃度範囲	官報公示整理番号		CAS番号
		化審法	安衛法	
2,2-ジクロロプロピオン酸ナトリウム	>=88 %	(2)-2654	2-(4)-179	127-20-8

4. 応急措置

吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
目に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 目の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
予想される急性症状及び遅発性症状	吸入した場合：灼熱感、咳、息切れ、息苦しさ、喉頭炎、咽頭痛、頭痛、吐き気、嘔吐、喉の炎症、気管支炎、肺炎、肺水腫、筋肉の痙攣。 皮膚に触れた場合：発赤、痛み、かぶれ、ただれ。 目に入った場合：発赤、痛み、かすみ眼。 飲み込んだ場合：灼熱感、下痢、吐き気、嘔吐。

5. 火災時の措置

消火剤	小火災：二酸化炭素、粉末消火剤、散水 大火災：粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール性泡消火剤、散水
特有の危険有害性	火災によって刺激性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。 加熱により容器が爆発するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具(『8. 暴露防止措置及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れて
-----------------------	---

はいけない。
漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。
低地から離れる。
風上に留まる。
密閉された場所は換気する。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。
河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

回収・中和

物質を吸込み又は掃き取って廃棄用容器に入れること。
不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。
ソーダ灰の希釈アルカリ溶液又は石灰によって中和する。

封じ込め及び浄化方法・機材

物質を固化して掻き取る。
危険でなければ漏れを止める。
除去後、汚染現場を水で完全に洗浄する。
水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。

二次災害の防止策

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。
容器内に水を入れてはいけない。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策	『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
	局所排気・全体換気	『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
	安全取扱い注意事項	火気注意。 ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。 眼、皮膚との接触を避けること。 飲み込みを避けること。 取扱い後はよく手を洗うこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
	接触回避	『10. 安定性及び反応性』を参照。
保管	技術的対策	保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適当な傾斜をつけ、かつ、適当なためますを設けること。 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。
	混触危険物質	『10. 安定性及び反応性』を参照。
	保管条件	酸化剤から離して保管する。
	容器包装材料	消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策		空気中の濃度を制御するには、一般適正換気で十分である。 本製品を貯蔵又は使用する設備は、眼洗浄施設及び安全シャワーを設置したほうがよい。
保護具	呼吸器の保護具	換気が不十分な場合には、適切な呼吸器保護具を着用すること。 防塵マスク、送気マスク、自給式呼吸器 有機ガス用保護マスク
	手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。 保護手袋(ゴム製、プラスチック製)
	眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
	皮膚及び身体 の保護具	適切な保護衣を着用すること。
衛生対策		取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態	形状 色 臭い	粉末 白 無臭		
融点		測定不能		
溶解度		629g/L(水)		
蒸気圧		0.0000017hPa	温度	25℃
比重(密度)		1.74	比重温度	20℃
オクタノール／水分配係数		測定不能	区分	実測値
分解温度		450℃以下で安定		
その他		溶解性 エタノール;110g/l アセトン;3.25g/l メタノール;369g/l		

10. 安定性及び反応性

安定性	一般的な貯蔵・取扱いにおいて安定である。
危険有害反応可能性	自己反応性、酸化性、自然発火性、水との反応性、いずれもなし。
避けるべき条件	高温、水分との接触。
混触危険物質	可燃性物質、還元性物質、強酸化剤、強塩基、混触危険物質などとの接触に注意する。 銅、鉄等の金属類
危険有害な分解生成物	燃焼又は高温により一酸化炭素、塩化水素等の有害ガスが発生する。

11. 有害性情報

経口 経口(根拠)	LD50 マウス♂♀ 製品の急性毒性値が>5000mg/kgのため 急性毒性(経口)一区分外とした。	>5,000 mg/kg
経皮 経皮(根拠)	LD50 ラット 製品の急性毒性値が>2000mg/kgのため 急性毒性(経皮)一区分4とした。	>2,000mg/kg

皮膚腐食性／刺激性(根拠)	ウサギを用いた皮膚刺激性試験で可逆的な刺激(紅斑及び浮腫のドレイズスコアが観察されたが、症状が48時間で消失したことから、皮膚腐食性／刺激性一区分外とした。
眼に対する重篤な損傷／刺激性(根拠)	ウサギを用いた眼刺激性試験で可逆的な刺激(軽度な角膜の混濁、結膜の発赤及び膨張)が観察されたが、症状が72時間で消失したことから、眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性一区分2Bとした。
呼吸器感受性(根拠)	データなし
皮膚感受性(根拠)	モルモットMaximization法で陰性であったことから、皮膚感受性一区分外とした。
生殖細胞変異原性(根拠)	in vivo 変異原性試験が実施されていないことから、データ不足のため分類できないとした。なお in vitro 変異原性試験(復帰突然変異試験、染色体異常試験)は陰性であった。
発がん性(根拠)	データなし
生殖毒性(根拠)	ラットとウサギを用いた催奇形性試験において、ともに催奇形性を示さなかったが(31)、生殖能への評価がなされていないため、データ不足のため分類できないとした。
特定標的臓器／全身毒性(単回ばく露)(根拠)	ラット経口急性毒性試験(0, 2500, 5000mg/kg)において、死亡例はみられず、特記すべき症状も認められなかったことから、特定標的臓器毒性(単回暴露)一区分外とした。
特定標的臓器／全身毒性(反復ばく露)(根拠)	ラットの3ヶ月間の亜急性毒性試験で最大無作用量が1000ppm(70-80mg/kg/day)であること、最高用量 5000ppm (350-400 mg/kg/day)において認められた所見が、雌における軽微な体重増加抑制と腎重量の増加で、病理組織学的検査においても特段異常がみられなかったことから、特定標的臓器毒性(反復暴露)一区分外とした。
吸引性呼吸器有害性(根拠)	データなし

12. 環境影響情報

環境に対する有害性

水生環境急性有害性	藻類(緑藻)の ErCC50(0~72hr) >100mg/L から、水生環境急性有害性一区分外とした。
水生環境慢性有害性	難水溶性でなく(水溶解度 = 5.02 × 105mg/L、急性毒性が低いことから、水生環境慢性有害性一区分外とした。

生態毒性

魚毒性／その他	LC50	コイ	>200mg/L (96hr)
環境影響その他	EC50	オオミジンコ	>200mg/L (48hr)

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団
-------	------------------------------------

体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報
UN No.
Proper Shipping
Name.
Class
Packing Group

IMOの規定に従う。
1759
Corrosive solid, n.o.s.
8
III

航空規制情報
UN No.
Proper Shipping
Name.
Class
Packing Group

ICAO/IATAの規定に従う。
1759
Corrosive solid, n.o.s.
8
III

国内規制

海上規制情報
国連番号
品名
クラス
容器等級
航空規制情報
国連番号
品名
クラス
容器等級

船舶安全法の規定に従う。
1759
その他の腐食性物質(固体)
8
III
航空法の規定に従う。
1759
その他の腐食性物質(固体)
8
III

特別安全対策

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れを生じないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

重量物を上積みしない。

輸送時にイエローカードを携帯する。

15. 適用法令

特定有害廃棄物等の輸出入等の規制に
関する法律(バーゼル法)
農薬取締法
航空法
船舶安全法

廃棄物の有害成分・法第2条第1項第1号イに規定するもの(平10三省告示1号)
腐食性物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)
腐食性物質(危規則第3条危険物告示別表第1)

16. その他の情報

参考文献

日本ケミカルデータベース(株)「化学品総合データベース」

その他

記載内容は、現時点で当社が入手した資料・データ等に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、安全性を保証するものではありません。又、注意事項は通常の実施を前提としたもので、特殊な実施の場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。